

CASBEE-建築(新築)2014年版
(仮称)宮津福祉人材養成センター

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.0)

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.8
Q1 室内環境						2.9
1 音環境		2.6	0.40		-	2.6
1.1 騒音		3.0	0.40	2.6	1.00	2.6
1.2 遮音		3.0	0.40	3.0	0.40	
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	3.0	0.20	
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境		3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境		2.8	0.25	3.2	1.00	2.9
3.1 昼光利用		3.4	0.30	3.8	0.30	
1 昼光率		3.0	0.60	3.0	0.60	
2 方位別開口			-		-	
3 昼光利用設備	庇、中庭、トップライトの設置	4.0	0.40	5.0	0.40	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御		2.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		3.0	0.25	3.0	1.00	3.0
4.1 発生源対策		3.0	0.50	3.0	0.63	
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.30	3.0	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能			-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		3.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視			-		-	
2 喫煙の制御		3.0	1.00		-	
Q2 サービス性能			0.30			2.9
1 機能性		3.0	0.40	2.8	1.00	2.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性			-	3.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応			-		-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	2.5	0.40	
1 広さ感・景観	天井高さ2.5m以上を確保		-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース			-		-	
3 内装計画		3.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30			2.8
2.1 耐震・免震		3.0	0.50			
1 耐震性		3.0	0.80			
2 免震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.30			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20			

2.4 信頼性		2.6	0.20		-	
1	空調・換気設備	1.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備	3.0	0.20		-	
3	電気設備	3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法	3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備	3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性		3.0	0.30	3.0	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり		3.0	0.30	3.0	0.50	
1	階高のゆとり	3.0	0.60	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		3.0	0.40		-	
1	空調配管の更新性	3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性	3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性	3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性	3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性	3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出		2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30		-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性						3.2
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		モデル建物法での評価BPI _m =0.74		4.0	0.20	4.0
2 自然エネルギー利用		太陽光パネルの設置		4.0	0.10	4.0
3 設備システムの高効率化		BEI _m 非住宅 0.90 住宅(専有部) 0.83		4.0	0.50	4.0
集合住宅以外の評価(3a,3b)		モデル建物法での評価BEI _m =0.90		4.0	1.00	
集合住宅の評価(3c)						
4 効率的運用		3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価		3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング	3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制	3.0	0.50		-	
集合住宅の評価						
4.1	モニタリング					
4.2	運用管理体制					
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護		3.0	0.20		-	3.0
1.1	節水	3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減		2.9	0.60		-	2.9
2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.20		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.20		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.10		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	3.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70		-	
1	消火剤					
2	発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50		-	
3	冷媒	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO ₂ 排出率が一般的な建物と同等		3.3	0.33	3.3
2 地域環境への配慮		2.3	0.33		-	2.3
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	3.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	1.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮		2.4	0.33		-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
1	騒音	3.0	0.33		-	
2	振動	3.0	0.33		-	
3	悪臭	3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		1.6	0.40		-	
1	風害の抑制	1.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制					
3	日照阻害の抑制	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70		-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30		-	